

地域ネットワーク部会

平成26年1月10日

全体目標

がんにより死亡する人の減少
がんの年齢調整死亡率(75歳未満、人口10万人当たり)を平成29年度までに20%減少させる。

すべてのがん患者及びその家族の苦痛の軽減並びに療養生活の質の維持向上

部会が担当する分野の課題と目標

【目標】 住んでいる地域にかかわらず県民が希望する医療を受けられる。

中期目標：2015年までにすべての病院・施設がパスについて知識をもち、各医療機関の医療資源を把握し、有効活用する

最終目標：2018年までに県民が希望する医療を受けられるよう、患者の意見を聞き、希望するすべての患者にパスを適用し、地元の施設に係る患者の増加、拠点病院の集中化解消を行う。

指標：パス患者適用率

測定方法：拠点・支援病院のパス対象患者数・適用患者数の合算、分析

指標：パス患者適用率
測定方法：拠点・支援病院のパス対象患者数・適用患者数の合算、分析

施策毎のアウトカム目標

【アウトカム目標1】
医療者、行政などから医療機関の機能や役割が見え医療資源が適切に有効活用される。

【アウトカム目標2】
2015年3月までに、離島、院内、かかりつけ施設、一般向けに研修会を行う

【アウトカム目標3】
2014年6月までに私のカルテ(A5版)を配布及びHPに公開する。

【アウトカム目標4】
2015年3月までに各地区医師会とのコミュニケーションの場を設定し、沖縄県のがん医療連携における課題・要望を把握する。

【アウトカム目標5】
2015年6月までに化学療法のパスを作成する。

【アウトカム目標6】
2014年3月までに、術後以外のパスを作成し、4月に研修会を行う

【アウトカム目標7】
2015年3月までに肺がん10人、胃がん30人、肝がん10人、大腸がん60人、乳がん120人、沖縄県内でがん地域連携クリティカルパスを適用する

【アウトカム目標8】
2015年3月までに前立腺がん10人、沖縄県内でがん地域連携クリティカルパスを適用する

【アウトカム目標9】
2015年3月までに1人に緩和ケア関連の地域連携クリティカルパスを運用する

【アウトカム目標10】
2015年3月までに小児がん・希少がん医療連携について検討を開始する

【アウトカム目標11】
毎年、都委委員が発表する2015年3月までに論文を作成する

【アウトカム目標3】 地元の施設にかかる患者の増加

施策毎のアウトカム目標

【施策1】
八重山・宮古・久米島・北部ではがん診療を行っている医療機関に、院内がん登録を用いて「症例区分(診断の治癒開始後など)」を集計し、診療実績を明らかにする。

施策アクションプラン

【施策1】
八重山・宮古・久米島・北部ではがん診療を行っている医療機関に、院内がん登録を用いて「症例区分(診断の治癒開始後など)」を集計し、診療実績を明らかにする。

【施策2】
がん地域連携クリティカルパス研修会を企画開催する。

【施策3】
私のカルテの改訂を行う。

【施策4】
がん診療連携の在り方を検討する

【施策5】
胃がんと大腸がんの化学療法のパスを作成する。

【施策6】
術後フォローアップ以外の前立腺がん地域連携パスを作成する

【施策7】
肺がん、胃がん、肝がん、大腸がん、乳がんの地域連携パスの簡素化の改訂を行い、適用数を増やす。

【施策8】
前立腺がん地域連携パスの適用数を増やす

【施策9】
症状緩和を目的とした緩和ケア関連の地域連携パスを緩和ケア部会と合同で作成・運用する

【施策10】
小児がんはWG開催し、希少がんはWGを設置する

【施策11】
地域ネットワーク部の活動を学会報告および実績を論文化する

ワークシート1で導き出された対策項目

【対策項目1】
医療者、行政などすべてに対する情報不足の解消

【対策項目2】 地元医療施設での治療の促進

前立腺がん地域連携クリティカルパス研究会 開催報告

1. 日時：平成26年10月23日（木）19：00～21：00
2. 場所：沖縄県市町村自治会館
3. 対象：医療関係者
4. 共催：日本泌尿器科学会沖縄地方会 沖縄県がん診療連携協議会
アステラス製薬（株）
後援 沖縄県医師会医学会
5. 参加者数：38名（医師 13名、看護師 3名、その他 5名、不明 17名）
4. 内容：一般演題に、琉大病院 呉屋先生より、がん地域連携クリティカルパスが始まった経緯、沖縄県版前立腺がん連携パスを用いた医療体制、パスの診療報酬算定について説明があり、同院 宮里先生より、PSA二次検診クリティカルパスについて説明があった。特別講演では、武蔵野赤十字病院の田中先生より、同院の6大がん（前立腺がん、肺がん、胃がん、肝がん、大腸がん、乳がん）の適用状況や、術後フォローパスとPSAパスの2種類の手帳があること、患者さんとかかりつけ医へのアンケート調査について説明があった。アンケート調査の回答については、患者さんからは、近くて便利になった。かかりつけ医からはパスの適用数が増えるほど好意的な意見が多いことが報告された。

前立腺癌地域連携クリティカルパス研究会

日時：2014年10月23日（木）19:00～

会場：沖縄県市町村自治会館

沖縄県那覇市旭町116-37 TEL.098-862-8181

情報提供：19:00～19:10 アステラス製薬（株）学術室

【一般演題】19:00～

座長：琉球大学大学院医学研究科 泌尿器科学講座 教授 斎藤 誠一 先生

1. 『沖縄版前立腺がん連携パスを用いた医療連携体制と

連携パスの診療報酬算定』

琉球大学大学院医学研究科 泌尿器科学講座 講師 呉屋 真人 先生

2. 『PSA二次検診クリティカルパス』

琉球大学大学院医学研究科 泌尿器科学講座 講師 宮里 実 先生

【特別講演】 19:40～

座長：沖縄県立中部病院 副院長 新垣 義孝 先生

『前立腺がん地域連携パス

～二人主治医制を機能させるために～』

武蔵野赤十字病院 泌尿器科 部長 田中 良典 先生

※軽食をご用意させていただきます

共催 日本泌尿器科学会沖縄地方会 沖縄県がん診療連携協議会 アステラス製薬（株）
後援 沖縄県医師会医学会

研究会風景



呉屋真人先生より、沖縄県版前立腺がん連携パスを用いた医療体制やパスの診療報酬算定について説明がありました。



宮里実先生より、「PSA 二次検診クリティカルパス」について説明がありました。



一般演題の座長に
斎藤誠一先生（琉大病院）
特別講演の座長に
田中良典先生（中部病院）



参加者より、協力機関の申込方法などについて質問がありました。



田中良典先生より、武蔵野赤十字病院のパスの適用状況や、PSA パス、患者さんとかかりつけ医へのアンケート調査について講演がありました。

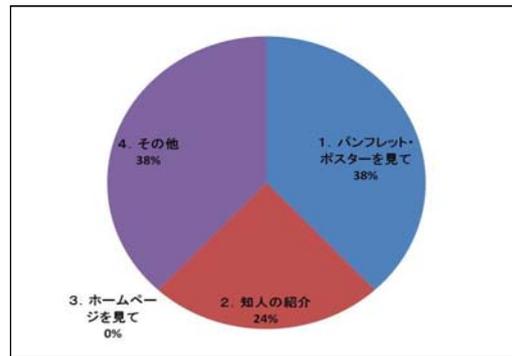


田中良典先生へ、パスの運用などについて質問がありました。

前立腺がん地域連携クリティカルパス研究会 アンケート集計結果

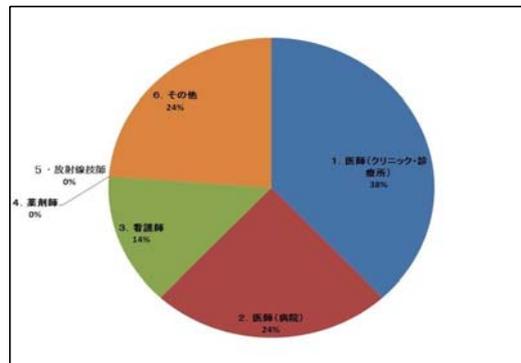
Q1 本日の研究会をどこでお知りになりましたか。

1. パンフレット・ポスターを見て	8
2. 知人の紹介	5
3. ホームページを見て	0
4. その他	8



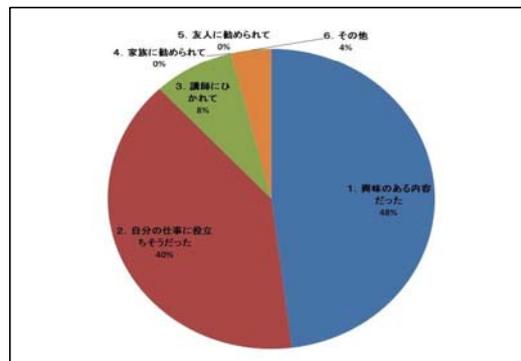
Q2 ご職業を教えてください。

1. 医師（クリニック・診療所）	8
2. 医師（病院）	5
3. 看護師	3
4. 薬剤師	0
5. 放射線技師	0
6. その他	5



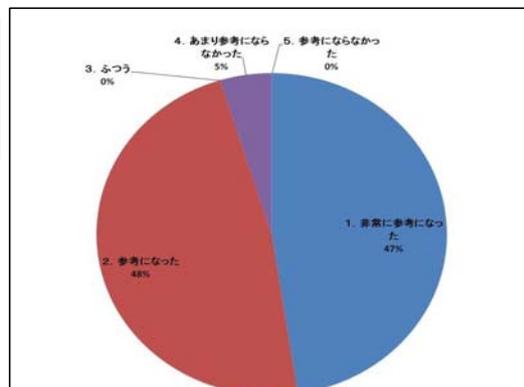
Q3 この研究会にいらした動機を教えてください。

1. 興味のある内容だった	12
2. 自分の仕事に役立ちそうだった	10
3. 講師にひかれて	2
4. 家族に勧められて	0
5. 友人に勧められて	0
6. その他	1



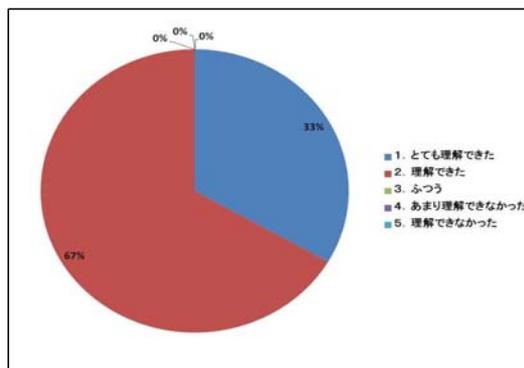
Q4 本日の研究会についてのご感想をお聞かせください。

1. 非常に参考になった	10
2. 参考になった	10
3. ふう	0
4. あまり参考にならなかった	1
5. 参考にならなかった	0



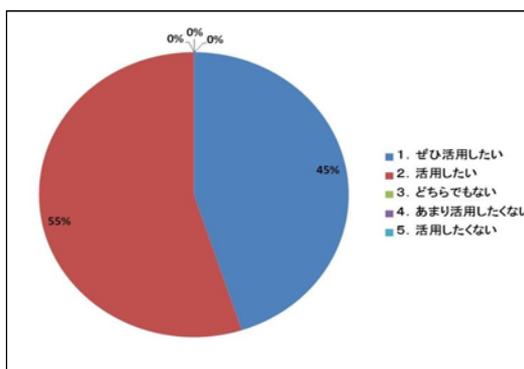
Q5 研究会の内容について理解できましたか。

1. とても理解できた	7
2. 理解できた	14
3. ふつう	0
4. あまり理解できなかった	0
5. 理解できなかった	0



Q6 前立腺がん地域連携クリティカルパスを活用したいと思いましたか。

1. ぜひ活用したい	9
2. 活用したい	11
3. どちらでもない	0
4. あまり活用したくない	0
5. 活用したくない	0



平成26年度第3回地域ネットワーク部会議事要旨

日 時 : 平成26年10月8日(水) 18:00~19:00

場 所 : 琉球大学医学部附属病院 がんセンター

構成員 : 13名

出席者 : 9名

宮里 浩(那覇市立病院)、高江洲 和代(那覇市立病院)、高江洲 アヤ子(那覇市立病院)、
翁長 悦子(中部病院)、鈴木 英章(八重山病院)、佐村 博範(琉大病院)、宮城 みづえ(琉
大病院) 増田 昌人(琉大病院)、仲本 奈々(琉大病院)

欠席者 : 上田 真(中部病院)、照屋 淳(北部医師会病院)、真鶴 善栄(がん患者会連合会)、
川満 博昭(県立宮古病院)

陪席者 : 南 大介(よりよい地域医療を応援する会)、宮永 弥生(琉大病院)、呉屋葉子(琉大病院)

[報告事項]**1. 平成26年度第2回沖縄県がん診療連携協議会地域ネットワーク部会議事要旨について**

宮里副部会長より、資料1に基づき、平成26年度第2回沖縄県がん診療連携協議会地域ネットワ
ーク部会議事要旨について報告があり、承認された。

2. がん地域連携クリティカルパスの適用状況について

宮里副部会長より、資料2に基づき、9月30日現在の3拠点病院のがん地域連携クリティカルパ
スの適用状況について報告があった。

3. 前立腺がん地域連携クリティカルパス研究会の開催について

増田委員より、琉大の泌尿器科が主体となり、日本泌尿器科学会沖縄地方会と沖縄県がん診療連携
協議会が共催で、10月23日に前立腺がん地域連携クリティカルパス研究会を開催すると報告があ
った。

4. 県外の連携状況等の報告および情報提供について

よりよい地域医療を応援する会の南さんより、資料4に基づき、県外の連携状況について、福岡県
が術後アジュバンのパス、進行期の薬物療法パスの連携を検討していることや、山口県は胃・大腸が
んの私のカルテ改訂し、現在、2次医療圏単位で医療者対象にパスの改訂内容の説明会とかかりつけ
医との情報交換を実施していると情報提供があった。

[審議事項]**1. 今年度の事業計画の実施について**

佐村部会長より、今年度の事業計画の実施について説明があり、以下の通り事業計画を進めること
になった。

【施策1】八重山・宮古・久米島・北部ではがん診療を行っている医療機関に、院内がん登録を用い
て「症例区分(診断のみ、診断+治療、治療開始後など)」を集計し診療実態を明らかにする。

⇒八重山が県に提出している院内がん登録のデータを頂けるか、確認することとなった。

【施策2】がん地域連携クリティカルパス研修会を企画開催する。

⇒離島での開催を行うこととなった。

【施策 3】私のカルテの改訂を行う。

⇒大腸・前立腺がん以外の私のカルテの改訂も進めることとなった。

【施策 4】がん診療連携の在り方を検討する

⇒浦添総合病院に池村クリニックとパスの連携をして頂くよう依頼し、連携後、意見を伺うこととなった。

【施策 5】胃がんと大腸がんの化学療法のパスを作成する。

⇒作成中である大腸がんの化学療法のパスの見直しを行い、進めることとなった。

【施策 6】

術後フォロー以外の前立腺がん地域連携パスを作成する

⇒今後、作成して頂くこととなった。

【施策 7】肺がん、胃がん、肝がん、大腸がん、乳がんの地域連携パスの簡素化の改訂を行い、適用数を増やす。

⇒乳がんから地域連携パスの簡素化の改訂を進めることとなった。

【施策 8】前立腺がん地域連携パスの、適用数を増やす

⇒研修会などを開催して、対応する。

【施策 9】症状緩和を目的とした緩和ケア関連の地域連携パスを緩和ケア部会と合同で作成・運用する。

⇒浦添市の勉強会に広報や内容について意見求めるなど進めていることが報告され、琉大でも病棟で使えれば使うこととなった。

【施策 10】小児がんは WG 開催し、希少がんは WG を設置する。

⇒国の方針が決まったので、事業計画から外すこととなった。

【施策 11】地域ネットワーク部会の活動を学会報告および実績を論文化する

⇒外科学会で報告しているので実績としてのこせれば、のこすことになった。

2. 胃がんと大腸がんの化学療法のパスについて

山口県の化学療法のパスを参考に、大腸がんは今あるものに合わせて作成することとなった。胃がん化学療法パスは胃がんの WG に提示して意見を求めることとなった。

3. パス普及を目的とした、講演会開催について

各施設、課題が異なるため、それぞれの施設で意見交換会など行うこととし、琉大は大腸がんを中心にかかりつけ医との意見交換会を行うこととなった。

4. 臓器別に各拠点のパス責任者会議の開催について

パスの普及を目的とした意見交換会を行ってから、臓器別に各拠点のパス責任者会議は検討することとなった。

5. 浦添医師会との連携案の継続性について

浦添総合病院と池村クリニックにパスを使用した連携をして頂き、意見を伺うこととなった。

6. その他

鈴木委員より、八重山でも出来ることがあれば協力したいので、院内の纏めかたも含めて教えてほ

しいと意見があり、佐村部会長が八重山でパスの説明会を行うこととなった。開催日等については後日決めることとなった。

高江洲和代委員より、以下、那覇市立の現状報告と連携パスについて提案があった。

- ・適用件数が昨年度から減ってきていることから、外科の医師に周知し協力を依頼する予定。
- ・連携後のフォローを外科ADとナースでチェックしており、その後、連携先のクリニックと患者さんにアンケートを行っていきたい。
- ・前立腺がんパスについて、病棟・泌尿器科外来・泌尿器医師・連携室とで勉強会に参加して、取り組みを進めている。
- ・適用患者が来た時の把握について、外科外来のADがチェックし、経過表と情報提供書は連携室からかかりつけ施設に持参または郵送している。
- ・パス適用患者は算定の有無にかかわらず控えている。名前をADが入力し、算定の有無は医事課に確認している。
- ・連携パスのパンフレットなどがあれば、連携交流会などで医師会の登録医に配布してはどうか。

宮里副部会長より、外来から緩和医療のフォローするためにも、パス患者だけでなく、がん患者を全員登録する体制を作ることを検討していると報告があった。

7. 次回の開催について

次回の開催日は、第一候補は12月10日、第二候補は12月3日となった。